



五木村議会だより
2013 (平成25年) 4月30日発行

やまき

題字：尾方 芳郎氏

No. 104



おいしい手作り弁当 小・中見知り遠足 4月12日

- (もくじ)
- ・平成25年度一般会計予算28億7千万円……………2～4
 - ・さらなる努力を……………5
 - ・開所1年を迎えた五木の友……………6
 - ・公共事業は(一般質問)……………8～15
 - ・ピカピカの1年生……………17

決まる

財源依存率 93%

(総額34億7千万円)

(歳入)

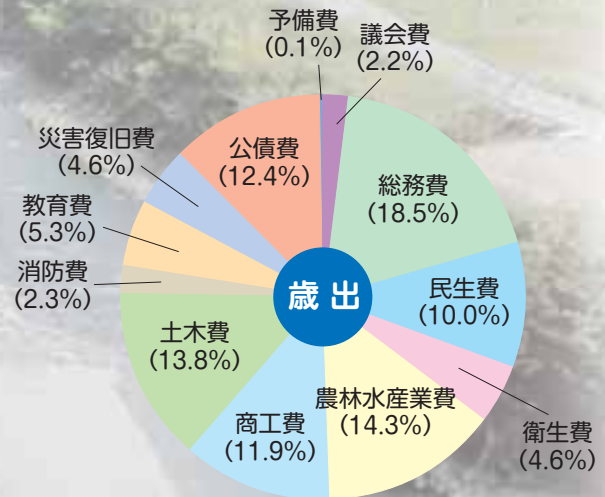
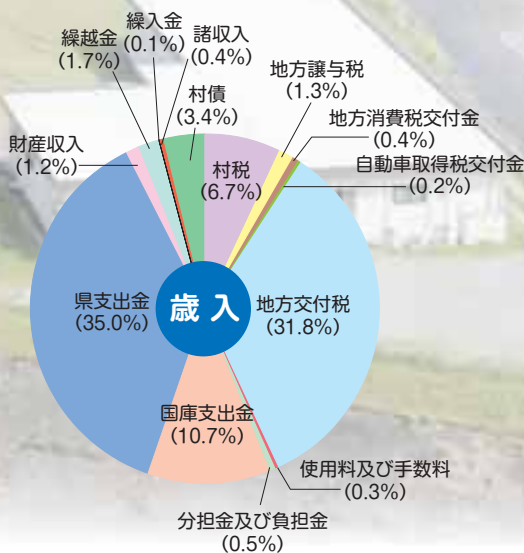
(単位：万円)

款	本年度予算額	構成比
1 村 税	19,138.9	6.7
2 地 方 譲 与 税	3,800.1	1.3
3 利 子 割 交 付 金	22.0	0.0
4 配 当 割 交 付 金	7.4	0.0
5 株 式 譲 渡 所 得 割 交 付 金	3.0	0.0
6 地 方 消 費 税 交 付 金	1,140.0	0.4
7 自 動 車 取 得 税 交 付 金	630.0	0.2
8 地 方 特 例 交 付 金	1.0	0.0
9 地 方 交 付 税	109,060.8	31.8
10 交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	20.0	0.0
11 分 担 金 及 び 負 担 金	1,406.8	0.5
12 使 用 料 及 び 手 数 料	940.9	0.3
13 国 庫 支 出 金	30,580.9	10.7
14 県 支 出 金	100,219.3	35.0
15 財 産 収 入	3,532.1	1.2
16 寄 附 金	5.1	0.0
17 繰 入 金	150.1	0.1
18 繰 越 金	5,000.0	1.7
19 諸 収 入	1,151.9	0.4
20 村 債	9,670.0	3.4
歳 入 合 計	286,479.4	100.0

(歳出)

(単位：万円)

款	本年度予算額	構成比
1 議 会 費	6,283.3	2.2
2 総 務 費	53,071.9	18.5
3 民 生 費	28,676.9	10.0
4 衛 生 費	13,255.0	4.6
5 農 林 水 産 業 費	40,879.5	14.3
6 商 工 費	34,060.9	11.9
7 土 木 費	39,414.1	13.8
8 消 防 費	6,755.2	2.3
9 教 育 費	15,243.0	5.3
10 災 害 復 旧 費	13,114.6	4.6
11 公 債 費	35,525.0	12.4
12 予 備 費	200.0	0.1
歳 出 合 計	286,479.4	100.0



※構成比…小数点第2位四捨五入

こんなことが
決まりました

平成25年度当初予算 一般会計28億7千万円

平成25年第1回定例会が3月11日から19日までの会期で開催。「同文議決案件2件」、「条例の制定案件7件」、「条例の一部改正案件6件」、「字の区域変更案件1件」、「村道の廃止案件1件（4路線）」、「村道の認定案件1件（19路線）」、「工事請負変更契約案件1件」、「平成24年度補正予算案件6件」、「平成25年度当初予算案件10件」、「議員提案案件2件」並びに追加提案の「工事請負契約案件4件」、「人事案件1件」の合計42件を原案どおり可決しました。また、一般質問は8人の議員が質問しました。

平成25年度特別会計当初予算集計表 (単位：万円)

会 計 別	予 算 額
国民健康保険特別会計	19,066.7
ダム対策事業特別会計	25.2
簡易水道事業特別会計	14,181.1
農業集落排水事業特別会計	1,459.0
介護保険特別会計	19,549.5
代替地上下水道特別会計	1,184.7
後期高齢者医療特別会計	2,180.5
墓地公園特別会計	24.0
情報通信事業特別会計	2,603.9
計	60,274.9

平成24年度一般会計補正予算（第7号）で
4億1,900万円の増額（国の緊急経済対策による）

主な事業は

- 下谷地区簡易給水施設改修設計委託……4,450万円
- 瀬目地区簡易給水施設改修事業……3,000万円
- 葛の八重地区簡易給水施設改修事業……1,865万円
- 村道出ル羽線道路改築事業……4,100万円
- 村道白岩戸線道路改築事業……4,500万円
- 歴史文化交流館整備事業設計委託……3,350万円

雇用の場を創り出せ

企業立地促進条例を制定

議会でも重要課題としている雇用の場の確保と創出のため、今回、「企業立地促進条例」が可決成立しました。その内容については村内に企業の誘致、立地を促進するため奨励措置（固定資産税の減免）、便宜の供与（事業用地、用水、道路など）を図る条例です。

3月定例会で制定された条例の制定7件は下記のとおりです。

- 五木村企業立地促進条例
- 新型インフルエンザ等対策本部条例
- 指定地域密着サービスの事業の人員、整備及び運営に関する条例
- 指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する条例
- 水道布設工事監督者の配置基準及び資格基準関係条例
- 村道の構造の技術的基準に関する条例
- 村道に設ける道路標識の寸法に関する条例

平成25年度主要施策

1 「五木村生活再建計画」(ハード)

(517,141千円)

- 生活の質の向上のための施策
村道鶴線道路改良事業
村道折立線改良事業

3 「その他計画又単独事業」

(187,680千円)

- 暮らしづくりの施策
生活交通対策の充実
地籍調査
- 人づくりの施策
特別支援教育支援事業

2 「ふるさと五木村づくり計画」(ソフト)

(341,129千円)

- 働く場づくりの施策
特産品開発・販路拡大
椎茸生産施設・設備整備事業
- 暮らしづくりの施策
移住定住支援
食の自立支援事業（高齢者給食サービス）
- 人づくりの施策
子ども夢創造芸術文化イベント事業
住民向け地域伝統芸能保存事業

《採 決》

提案された議案の内、反対があったのは村道の認定案件です。その案件は水没予定地にある旧国道に接続する道路を改修した上で村に移管し認定する。としたもので、村長が道路及び防護柵、側溝などの改修を終えた上でないと供用しない。と説明があり採決の結果、賛成8、反対1で可決しました。その他の議案は全会一致で可決成立しました。

さらなる努力を!!

議会改革

議員自ら五木村の危機的状況を打開するため、議会改革の一つとして、平成22年4月、議員成果報酬制度を導入し議会活動を行ってきました。

しかし、制度運用上の問題や各議員の意見の相違等もあり、平成24年12月定例会にて、この制度を廃止し、平成25年4月1日から議員報酬を制度導入前の額に戻しました。このことについては、議員も真摯に反省をしております、村民の皆様にご迷惑をお掛けし、お詫びするとともに、改めて五木村の再建と村づくりのために努力していくことで意見が一致したところで

す。
また、成果報酬制度を廃止する協議の中で、議員定数についても議論しましたが、他の町村にない課題など山積しており、現定数にて努力し、今後も議論していくこととし、下記事項を重点に議会改革を行っていく所存です。



採決の様子

記

1. 議会活動を村民にご理解いただけるよう広報に努める。
2. 議員定数については、住民の意見を反映した最善の定数を検討する。
3. 毎定例会閉会後に反省等を含め、議会活動の向上と村づくりに努める。
4. 議会報告会と各種団体との意見交換会を開催し、村民との対話に努め、村民の意見を村政へ反映していく。

球磨郡町村議会実態調査（第58回全国町村議会実態調査より抜粋）※平成24年7月1日現在

項目 町村名	人口 (人) 平成23年度 国勢調査	議員 定数 (人)	議員報酬(円) ※1			委員会年間開催日数 (平成23年7月1日～平成24年6月30日)				
			議長	副議長	議員	全 員 協 議 会	常 任 委 員 会	議 会 運 営 委 員 会	特 別 委 員 会	計
錦町	11,075	14	302,600	250,100	227,300	12	34	9	28	83
あさぎり町	16,644	16	316,000	261,000	237,000	16	25	4	13	58
多良木町	10,554	14	310,000	255,000	232,000	15	32	13	19	79
湯前町	4,375	11	298,000	246,000	225,000	10	24	10	0	44
水上村	2,405	10	295,100	243,300	221,400	9	7	4	3	23
相良村	4,934	11	281,000	232,000	211,000	0	13	6	5	24
山江村	3,681	10	289,000	238,000	216,000	9	5	9	8	31
球磨村	4,249	11	298,000	245,000	223,000	7	1	9	5	22
五木村	1,205	10	(227,000) 284,000	(187,000) 234,000	(170,000) 213,000	20	15	4	25	64

※1 五木村の上段()は、成果報酬制度導入中の定額報酬額。下段は、平成25年4月1日から

小規模多機能ホーム「五木の友」

開所1年を迎え意見交換会

総務常任委員会

調査内容と意見交換

平成24年4月1日に開所した小規模多機能ホーム「五木の友」が、初めて本村に民間介護施設として開所され1年を経過した。施設の現状把握と、議会として何らかの手助けはないか、職員との意見交換を行った。

施設側より

- ・入所登録定員25名に対し、現在登録者12名で金曜日が最大12名である。(うち泊まりが4名)
- ・当初よりは利用者が増えてきており、スタッフも自分たちの仕事として実感している。
- ・介護の度合いにより、1ヶ月の自己負担額が違ふ。(要支援1:4,469円、要介護5:28,120円)
- ・宿泊費は1泊(個室)で1,300円の個人負担が必要である。
- ・その他自己負担として(朝食、昼食、夕食、おむつ、衛生費等)
- ・利用者のためにも家庭的な施設を目指し、屋外にも出ていくようにしている。
- ・利用者1名につき、3名の職員が必要である。



施設職員との意見交換会

委員からの質疑

- Q・収支的にはどうか。
 A・介護報酬は、2ヶ月遅れの収入になる。(月平均200万円程度)
 Q・かかりつけの病院はどうなっているのか。
 A・基本的には五木診療所である。
 Q・介護の程度で違うと思うが、平均で個人負担はどの程度か。
 A・要介護1で月額11万円程度であり、その1割が個人負担となる。

まとめ

意見交換会を行い、施設職員・川辺保健福祉課長より話を聞いた結果、今後2年、3年と経つと経営も安定すると考えられる。施設長も地域の井戸端的施設にしたい旨の積極的な意気込みが見られ、当初の不安が和らいだ感じがした。

しかし、他市町村の施設にも言えることであるが、利用者の自己負担額、特に年金生活者にとっては負担が大きいと感じた。

なお、長崎のグループホームの火災において、スプリンクラーの設置の検討が急がれており、本施設への設置義務はないが、今後、設置が必要となった場合には助成金等の措置が必要と思われる。

その他の自己負担額

朝食	(1日) 380円
昼食(おやつ代含む)	400円
夕食	400円
おむつ	(1枚) 50円
衛生費	契約書による
特別徴収	契約書による

宿泊費

個室(1泊)	1,300円
--------	--------

サービス費用自己負担額

要介護度	自己負担額(1ヶ月)
要支援1	4,469円
要支援2	7,995円
経過的要介護(現要支援)	4,469円
要介護1	11,430円
要介護2	16,325円
要介護3	23,286円
要介護4	25,597円
要介護5	28,120円

林道相良五木線・林道空舎線被災地調査

経済常任委員会

まとめ

林道相良五木線は、災害が大規模で多岐に渡っており、早い復旧を望む以外にないと感じた。また、全線において各所に谷止工が必要である。

林道空舎線は、地元住民への説明を慎重に行い、安定工法で早い復旧が必要である。

る。登山口より上においては、追々からの土

砂や石灰岩の流出がほとんどであった。

林道空舎線においては、地山が崩れ、路肩も数百メートルに渡り決壊しており、小規模であるが多数の落石が発生し、車両の通行に支障を来していた。

委員の意見

林道相良五木線は、仰烏帽子山登山客の減少による観光面や道の駅、温泉などの売り上げに大きな影響を与え、早い復旧が必要である。

林道空舎線は、迂回路としての機能を果たす重要な路線であるが、地山が動いていることもあり、梅雨時期や台風等も考慮し、工法の決定が必要である。

調査の経過

平成25年2月13日と2月26日に昨年7月12日の豪雨災害により、多大な被害を受けた仰烏帽子山登山に重要な「林道相良五木線」と県道五木湯前線の迂回路となる「林道空舎線」について、被害状況の確認のため、現地調査を行った。

現状

林道相良五木線は数箇所无路肩決壊が発生しており、災害時は路面が川となり岩石を押し流しているようである



林道相良五木線(仰烏帽子山第1登山口付近)



林道空舎線(地山が動いている)

を問う！

公共事業は

山本議員

早く着工し、完工したい

和田村長



橋梁が流された村道折立線

山本議員 東日本大震災の復興事業等が増え、全国の建設業者の35%が人手不足に陥っている。また政府は補正予算に景気対策の一環として公共事業を盛り込んでいるが、本村の工事の進捗とその対策は。

和田村長 公共土木、林道、農地災害まで含めると本村の災害は60

件程度である。災害復旧は3年間で完工する必要があり、再度災害に遭わないよう早く着工し、完工したい。指摘の人手不足については建設業界から同時発注でなく、平均的な発注を要望されており、現場代理人についても1現場1人が標準であるが、本村においては支障がない限り複数現場を担当しても良いこととしている。進捗については現在、目立った遅れは聞

いていない。
質問 福寿草の群生地である仰烏帽子山に通じる林道相良五木線、林道空舎線の危険性、

た遅れは聞いているが、折立線は生活道路である村道折立線は一刻も早い復旧が望まれるが、どのような対策をとっているのか。
村長 この3路線は、災害の規模が大きく、早く復旧に努めたいと思っている。折立線は手前の方から工事を実施する必要があり、今どうにか施工順序の計画ができつつあるので、順次発注を行っている。また相良五木線、空舎線は工法の検討に時間が必要で地域の方に大変ご迷惑をお掛けしているが順次進めていきたい。

い。
質問 安倍総理も復興や防災対策等を掲げられており、本村においても中小企業や小規模事業者が躍動し、農山村の豊かな資源が成長の糧となる、地域の魅力があふれる社会になるよう「強い五木村」

にすると言った村長の意気込みは。
村長 これはソフトとハードが相まって効果が出るものである。昨年は九折瀬等の災害があったが、思わぬところで家屋被害が発生するとような状況も生まれてきた。特に本村で深層崩壊が起こると川辺川や五木小川に天然ダムができ、交通途絶が大規模に起こることも想定される中、空と地上からの支援対策をどうするかである。国交省も山間地における通信網の確保や災害対応の訓練をされており、ソフト面の充実を図っていくとともに国・県に対しては、強く最上の工事施工をお願いし、一生懸命努力したい。

にしよう「強い五木村」

村づくり



道州制にはどう対応

岡本正議員

反対の意思表示をしている

和田村長

質問 九州知事会や経済同友会は道州制導入に積極的と聞く。今国会に基本法案を提出、可決するとス

岡本議員 道州制導入の動きがあるが、本村の様な小さな自治体はどんな影響があるのか。また現在のプロセスと、いつ、誰が決定するのか。
和田村長 現在の県を廃止、道州にして財源と権限を移し市町村を無くし20〜30万人の基礎自治体にして自らの財源で運営する。ということだが、そうなる

ケジュール通りに進むと思うが、県の町村会では、どう議論されているのか。
村長 県の町村会、また議長会もすべて導入には反対の決議をしている。

と税収や予算配分が人口の多いところに集中してしまう全国町村会の資料によると小さな自治体は戸籍事務などに限定されてくると思う。政府は平成25年度予算成立後、法案提出、27年度関係法案整備、30年度に導入目途としている。
質問 九州知事会や経済同友会は道州制導入に積極的と聞く。今国会に基本法案を提出、可決するとス

いがしろにしては困る。郡の町村会、県の町村会、全国町村会でも反対の意思表示をしている。

り大きな自治体になる。本村のような山間地は衰退し高齢化が進むのではないかと。法案が可決すると従うしかないのでは情報共有し、町村会でも議論し行動すること等、必要と思うがどう対応するのか。
村長 豊かな山村文化を守ることは大事だと思う。河川の上流にある町村が山を守りCO₂の吸収、木材の提供、きれいな水の供給をすることで都市部が発展する訳なので山間地域をな



ツリークライミング体験会の様子

●人材育成助成金の活用と効用

では様々だ思う。いろんな申請があり認可に悩む。多く活用してもらいたいが、多い時で4件位なのでPRも足りないと思う。
質問 技術取得には時間もお金もかかる。今の条例では使い勝手が悪いので条例の改正は考えられないのか。
村長 助成率は80%位で20%が自己負担である。生活に困窮し研修ができないでは困るので一定の生活費は保障し研修ができる機会はこの枠以外でも設けたい。

質問 人材育成助成金は毎年度、どれくらいの方が活用し、その効果はどうなのか。また、減額補正が続いているがその原因は。
村長 平成6年から26件、延べ358人の活用である。修学旅行、資格講習会、視察研修等に使い、効果について

を問う！



小水力発電は

概略設計に入りたい

山下議員

和田村長

山下議員 小水力発電の本格調査を平成24年度から進められ、候補地が3箇所とのことだが、現状は。

和田村長 平成22年度総務省の「緑の分権予算」で11箇所を調査し、そのうち3箇所が有望と判明した。現在、宮目木谷を年間流量の調査をして、良ければ25年度、概略設計に入りたい。

質問 この発電した電力利用は、議員提案で地元産業の育成に。残りは売電により財源確保を目的としていた。村長は村内全世帯を賄う能力があるといわれたが、設計はどうなっているのか。

村長 調査報告では年間250万kw売電すると年間7、500万円程度となっている。約700世帯を賄うことが出来る。五木村は自然に恵まれたエコエネルギー日本一の村

にしたい夢を私は持っている。また、候補地は水没予定地であるので起業を考えると「河川占用手続き」が必要となる。

質問 エコを目指した村は定住促進にも繋がる良い考えであるが、九州電力などとの関係はクリア出来るのか、また実現可能なのか。

村長 諸規定をクリアするとは十分可能だと思う。経済産業省、九電、JNCは自治体電力事業に前向きであり、停電時の対応にも非常に有利になる。

質問 栗鶴谷など、他の2箇所はどうなのか。

村長 25年度から流量調査をする。他に国土交通省の砂防ダムで落差があるところの資料をもらっている。簡易な方法で発電が可能か調査検討をする。

●温泉の熱源変更は

質問 昨年温泉の熱源変更計画で予算が組まれたが、その後、減額され、化石燃料から木質への変更と比較表を用い説明されたが、薪利用がベースか、十分検討されたのか。

村長 既存の重油と新たに電気と木質を比較した。また、木質については薪・チップ・ペレットの3種類を比較したが購入費、経済性と、

薪・チップ・ペレットの3種類を比較したが購入費、経済性と、村内供給を考えると薪炊きが最もメリットがあると判断した。

質問 チップなら企業育成、雇用、製品出荷など有利と思うが木材の消費や村

全体を考えたの判断なのか。

村長 チップ工場となると雇用は確保できるが製品の販売先などの課題もある。今回は消費量も多くないし現実的に林地残材で賄えるので薪炊きが有利と判断した。



温泉熱源として検討された木質ペレット

村づくり



前向きに進める

和田村長

若者の雇用対策は

田山議員

田山議員 今、人口減少や少子化、若者の雇用対策等が課題となっている。県との約束はどうなっているのか。

和田村長 県の施設も含めて約束してあるが今のところ全然進んでいない。

質問 県も財政難で厳しいのはわかるが、今の五木村の現状を見て県には、もっと強く要望すべきだ。球磨郡内にはこの十年くらいの間に十数社、企業が来ている。五木も頑張つて誘致するべきではないか。

村長 木材を活用した工場を作ればどうかと話はあるが、土地がないのが現状である。具体的に何かあれば提言してほしい。頑張りたい。

質問 今度、坊主山を切って7〜800坪の土地ができた



坊主山広場



が、そこに雇用対策になるような企業誘致をすればどうか。

村長 坊主山に限らず全体的に適地があるか、提言を含めて十分検討する。

を問う！

前期基本計画の成果は

岡本精二議員

人口減少の一途をたどっている

和田村長



災害復興記念碑（横手公園内）

岡本議員

平成30年を目標にした五木村の姿を掲げて策定された基本構想の内前期基本計画（平成21年度～25年度）をどう評価しているのか。

和田村長

前期基本計画の中で道路改良事業などは、ほぼ予定どおり進捗している。ダム事業に係る部分があるように進んでいない。目標の人口も減少の一途をたどっており反省すべきところである。

質問 生産年齢人口を増やすことが重要課題

であるが、生産年齢は38人の減。一方、高齢化率42・5%と県下1位で何ら改善が見られない。昨年、ひと月に1人増やす提案をしたが、どう取り組まれたのか。

村長 人口を増やす提案を受け、道の駅を核とした産業振興と資源を活用した従事者をどう増やすかだ。また村内企業などに若者層の就労をお願いをして、森林組合では村外からの通勤者が二十数人おられる。その様な方に

五木村に住んでもらうお願いをしているが、実は難しい。しかし、定住促進を図るために今回、空き家の改修を提案している。また、ひと月に1人増やすことは実現できてない。

質問 人口を増

やす方法は小中学校、高校の教職員に五木に住んでもらえば人口増加になり税収も伸びると思う。それには住宅環境整備が必要である。それと並行して、雇用の確保を図る。村には特殊な事情があるので熊本県に要望していく考えは。

村長 以前は教職員も五木に住んで社会教育、地域活動に活躍されていた。実現のためにはまず住宅の整備が必要。

●後期基本計画の取り組み

質問 後期基本計画策定は25年度に策定されるが、村長はどう取り組ま

れ、前期基本計画の反省を踏まえ、新たな施策を後期基本計画にどう盛り込まれるのか。

村長 後期基本計画は前期を反省し再生総合審議会に諮問して答申を受けた上で議会に提案したい。議会と一体

となった計画を作りたい。

いと思う。

●ふるさと五木村づくり計画の進捗

質問 熊本県と村が策定した「ふるさと五木村づくり計画」の中の現状課題として過疎化、少子高齢化がある、現状のままでは集落の機能維持はおろか、村の存立さえ危ぶまれる。若者の就業などで定住できる村づくりのために施策をされたが、その進捗状況は。

村長 働く場づくり、暮らしづくり、人づくりの関連を深め、安心して続けられる村づくりのために努力していく。

●昭和38年8月災害

質問 昭和38年8月17日の集中豪雨災害から50年目の節目となるが、村として復興記念などの計画あるのか。

村長 地元関係者と協議して計画したい、予算などが必要な場合は、6月の議会に提案したい。

村づくり



災害復旧は

早田議員

再度被災しない様に行く

森田建設課長

早田議員 昨年7月12日に発生した水害の災害復旧工事の状況と進捗は。

森田建設課長 村道の災害復旧工事申請が35件。その中で年度内発注および竣工が7本、繰り越しが15本、次年度予算で発注13本。林道については23件うち3月竣工発注が8本、繰り越しが12本、次年度予算発注が3本となっている。

質問 家屋の被害についてはどうなっているのか。

川辺保健福祉課長 家屋の全壊4件、床上浸水2件、床下浸水7件が被災し九折瀬地区3件の方々を除き、すべて復旧している。

質問 家屋被災を受けた方への精神的、経済的支援が必要で、長野県の栄村などは、人口流出対策が急務であると聞いているが、五木村はどう対応するのか。

村長 ハード面に関し

ては、それぞれ対応している。精神面のケアについては保健師の訪問と私も時間を作り話を伺ったりして、被災された方に今後のこととの相談を受けている。

質問 災害復旧は原形回復が基本と云われているが、再度被災しないような現場の工事ができるのか。

建設課長 基本は原形回復だが構造物などはより強い構造物、または根入れなど再度災害に遭わない計画をしている。

質問 五木村は林業が主産業であるとするなら、林道の被災箇所、特に折立線などは、迂回して仕事現場に行かなければならない状況だが、どう対応するのか。

建設課長 折立線は被災箇所が13か所あり5月位に建設機材の搬入ができる状況になり次第、可能であれば復旧に努めていきたい。

●ゴミ減量対策

質問 本村におけるゴミ減量対策と資源ゴミのリサイクル状況は。

保健福祉課長 人吉球磨全体で見ると努力の結果、減ってきているが本村では過去4年間に1回の搬送で100kg程度増えている状況である。

質問 人口は減っているのにゴミの量は増えているという現状にリ

サイクル、資源ゴミなどの分別で資源として出すような工夫が必要ではないのか。

保健福祉課長 クリーンプラザではゴミ分別の研修などもやっている。今後、企画して意識改革を進め取組みたい。
(その他村長所信について質問しました。)



昨年7月水害により決壊した県道宮原五木線

を問う！



治水対策工事の進捗は

中村議員

工程表に基づき実施

和田村長

中村議員 宮園・竹の川の治水対策事業が始まり2年が経過した。対策工事により昨年7月豪雨の時に甚大になるのを防げたと感じたが現在の進捗状況は。

和田村長 工程表に基づき確実に実行されている。竹の川地区では4,700㎡の河川土砂を取り除いたことにより流下能力が増し、被害を抑えられたと考えている。

質問 住民に対し説明が不十分ではと不安の声を聴くがどうなっているのか。

村長 県も村も年1回は地元で説明する約束になっている。予算が12月末に決まり、4月に確定となると遅くなるので2月に行ったが決定していない部分があり歯切れの悪い説明となってしまった。

質問 再び災害が起きた場合、現在の施工で、住民の安全が守れるのか不安だ根本対策として国道を含む宅地のかさ上げが必要と住民も要望している。

現在どうなっているのか。

村長 調査の段階で3月中旬に結果が出る予定である。国道445号の宮園地区から水害に遭う所のかさ上げ以外は、まだ検討課題で、ツガノキの所は災害復旧と改良工事を組み合わせた施工方法が生み出した。他の箇所の危険度はわかっているが財政事情や優先順位の判断など厳しい状況である。

質問 東日本大震災でさえ風化を懸念する声がある。行政として我々も災害時の住民のつらさを忘れてはならないと思うが。

村長 五木の災害に関してはあらゆる場面で要望している。国にも6回要望して危険箇所新たに監視カメラの設置し、砂防ダムの計画をしている。

質問 昨年7月の村内豪雨災害について住民に対し情報提供などの説明会はどのように行われたのか。

森田建設課長 九折瀬地区には、砂防の予算が付いた時点

(昨年末)で行い、砂防ダムを2基造り土砂を止める計画だが、河川ではないのでダムの間の流路の対策が取れないので国に再度、流路工の要望をした。

質問 梅雨まで数ヶ月となり計画にも乗っていない状況で住民の声にどう応じられるのか。

村長 国も着手したい意向だが現地測量、住宅整備、用地買収、工事内容など、様々な要素がある。梅雨の時期については応急工事はしたが、安全性は十分ではないので避難をしていただく事になる。

質問 被災者へのメンタルケアや今後の生活再建への関わりは、また期限付きの住宅提供や税の免除などがあるが期限が切れた後、まだ再建が困難な場合はどう対応するのか。

村長 被災の状況、家族の状況様々なので、個々に対応していく必要があると思う。2年という期限はある



川辺川と梶原川の合流点

が状況により延長措置も考える可能性もある。

質問 現状回復の災害復旧でなく災害の教訓を生かし、今後の災害に耐えうる強靱化計画は具体的に進んでいるのか。

村長 九折瀬では新たに築造するというケースで強靱化計画の一つの事例である。また砂防ダムの老朽化があるので補強する予定であり、これも強靱化の補正予算の事例である。

村づくり



暫定利活用出来るところから

和田村長

どうなる水没予定地

樫木議員

樫木議員 現在水没予定地の中にある旧五木中学校跡地を中心に整地がされているが、村はどこまで関与しているのか。また事業費を出しているのか。出ているとすれば財源はどこからなのか。

和田村長 この中学校跡地もそうであるが、水没予定地内には土捨て場がいくつもある。国交省が土捨て場として指定をして土砂を捨てているわけで、危険性がないように国交省の方で整理をしたいと村としても危険性がないようにして下さいと。ご指摘の中学校跡地周辺については、後々、村が計画をしたいので、出来るだけ平地にしたいだけなのかとお願いした。これは平地で使うかどうかは決まっていないが、いずれにしても使い勝手、設計がし易いようにと、お願いして工事をしたが、国交省のまだ所有物なので、

村としては占用も何もしていない。財源も国交省の費用である。

質問 村では水没予定地の暫定利活用計画を策定しようとしているが、先ほどの答弁で水没予定地は国交省のものであるということだが、村の利活用計画が策定されれば、これに絡んでくるのではないかと。そうなるかと村民等からも質問などが出てくるのではないかと。説明会など開く予定は。

村長 利活用計画の策定については、3月23日に答申を頂くようになっているので、それを待たねばならないので現段階では何も言えない。しかし関連が無いわけではないので、国交省には占用させて下さい、貸して下さいと申し上げている。

質問 水没予定地内で、色々な計画が図られれば、村内外で、「もうダムは出来ないの

は」という思いが広がるのではないかと。また村長は定例会冒頭に「ダム建設が再び前進する事は難しいのでは」と申され「ダムは建設されるべきもの」とも言っておられ、これでは村自ら前進も後退もしない2枚看板を背負わされたようなものではないかと思うのがこのことについて、どのように考えているのか。また村民に対する説明は。

村長 これは非常に重要な話であり村の振興の根幹に関わるものと思っている。現在ダムによらない治水を協議する場というのがあり幹事会まで開いたが、本会議は開かれていない状況である。紆余曲折あり法整備が整っていない今、私が、どうこうとは申し上げられない。しかし村の振興は

待ったなしであり、財源も要するという事で議会とも十分協議していく。いずれにしても利活用できる所から進めていく。その中で自ずと結論は出てくるのでは。ただ住民に対する説明は正確な話として実施する時期は必ずやってくると思っている。



暫定利活用が計画されている水没予定地

追跡

あれから
どうなった？

議会だより「やまめ」では委員会や一般質問の要旨を掲載して
いますが、今回は下谷地区から要望のあった「村道鶴地下谷線道
路拡幅改良工事」について追跡しました。

要望書「村道鶴地下谷線道路拡幅改良工事について」

平成24年5月2日

● 下谷地区区長より集落内の危険箇所
の道路拡幅改良工事の要望書を議会
で受付

平成24年6月議会定例会

● 経済常任委員会へ調査を付託

平成24年8月10日

● 要望者・経済常任委員会・建設課・
農林課で現地を視察

平成24年9月議会定例会

● 道路改良の必要性を報告（経済常任
委員会）

現在

● 農林課の林道開設計画もあり、地元への説明を行ったが地形的な問題もあり
林道計画は変更。
● 結果的に建設課にて計画することになる。なお、現縦断勾配が補助事業に適
合せず、村単独費による部分改良で今後、具体的な計画がされる。



きょうあい
狭い道路

議会の動き（4月～5月）

4月1日	五木中央保育所入園式（全議員）	4月25日	広報委員会
4月3日	4月定例全員協議会 広報委員会	4月26日	例月現金出納検査（岡本精議員）
4月5日	経済常任委員会	5月8日	5月定例全員協議会
4月8日	五木東小学校入学式（全議員）	5月10日	5月定例郡議長会議（議長）
4月9日	五木中学校入学式（全議員） 人吉高校五木分校入学式（全議員）	5月13日	一般県道小鶴原女木線改良貫通促進 期成会総会（議長）
4月10日	4月定例郡議長会議（議長）	5月16日	平成25年度町村議会議長研修会（議長）
4月11日	球磨地域振興局幹部との懇談会（議長）	5月19日	保・小・中・高合同運動会
4月12日	広報委員会 球磨郡監査委員協議会第25回定期総 会（岡本精議員）	5月22日	人吉球磨広域行政組合議会運営委員 会（早田議員）
4月14日	あさぎり町合併10周年記念式典（議長）	5月23日	九州治水期成同盟連合会第56回定 期総会（議長）～24日
4月19日	広報委員会	5月28日	第38回全国町村議会議長・副議長研 修会（正副議長）～29日
4月23日	平成25年度五木村戦没者追悼式（全議員）	5月29日	人吉球磨広域行政組合議会臨時会 （早田・中村議員）
4月24日	例月現金出納検査（岡本精議員）		

五木東小学校 一年
みのだりようたくん



で、たいいくのじゅぎょうも、がんばりたいとおもいます。そして、ずこうのじゅぎょうでは、いろんなものをつくってみたいです。

ほくは、やつと、しょうがくせいになれて、うれしいです。いろんなベんきょうも、たくさんできて、うれしいです。たくましい、からだになりたいので、がんばりたいとおもいます。

ピカピカの二年生



今回は五木東小学校の
新入生4名に書いてもらいました。

五木東小学校 一年
ながいあみちゃん



などおもいました。だから、じょうずにこげるようになったら、たかくたかくこぎたいです。

いちねんせいになつて、やつてみたことは、ブランコです。わけは、ブランコになかなかのるきかいがないから、たかくこいでいるひとをみています。

五木東小学校 一年
たかだちかちゃん



ぶかつどうはサッカーにはいりたいです。おともだちといっしょにボールをたくさんけりた

いちねんせいになつて、とてもうれしいです。いちねんせいになつて、こくごをがんばります。たくさんほんをよめるようになりたいです。

五木東小学校 一年
みやはらあやかちゃん



れておともだちをたくさんつくりたいです。ベんきょうもがんばります。

いちねんせいになつてやつてみたことは、バドミントンです。たくさんれんしゅうしてつよくなりたいたいです。はやくしょうがつこうせいかつにな

地方自治功労賞を受賞 田山淳士議員



熊本県町村議会議長会長から平成25年2月19日、正副議長在任7年以上の議員に贈られる自治功労賞を受賞されました。おめでとございます。



シリーズ たから 五木村の宝 Vol.8

=平 瀬=



平瀬溪谷



県道宮原五木線を頭地大橋より西へ約4km行った所から平瀬溪谷(五木小川)が始まる。昨年夏の大水害で、現在は河床も上がり、道路も工事中が続いたりしているが、以前は水量も豊富で川底に泳ぐ魚の姿もはつきりと見え、シーズンには川漁や水遊びに多くの人が親しまれていた。この溪谷は延長約6kmあり、折立谷川とオサイ谷川が合流する所が平瀬集落である。平瀬地区は現在、上と下に分かれているが以前(明治の初め頃)は平瀬村と呼

ばれていた時期もあった。村の最盛期(昭和初期〜30年頃)にはこの集落も大変な賑わいを見せていたと伝え聞く。幾多の水害に遭いながらも、道路改良等を繰り返し、現在、県道宮原五木線の中継線上に下平瀬(途中村道折立線の先に折立集落)、小椎葉、椿、坂下と小さな集落が点在し、数年前まで小椎葉地内には五木東小学校の分校があった。少子化の波にさらされ平成17年に閉校となり、今では更地となっている。また、基幹林道浪人越線

(坂下〜平沢津)が整備され大藪、立迫集落へのアクセスが便利になっている。その先にある国見山(標高1,271m)の登山口へも行く。更に坂下集落より300m先に村道鶯山線があり、その先が鶯山集落である。平瀬地区も歴史は古く、その昔、旦那と呼ばれていた家が2軒あり、それぞれの地所に阿蘇神社を奉り堂もそれぞれに持っていたようだ。また、人吉にある永国寺の境内には、西南の役(1877年(明治10年)の折、敗走して来た薩軍の兵士と

思しき浪人が、この地で息絶え無縁仏として葬られている事を知った縁の人によって永国寺に移し手厚く葬ったと記した墓碑が建てられている。五木村の西の玄関口大通峠までは約6kmである。

編集後記

春らんまんな季節となり、小学校・中学校・人吉高校五木分校では、それぞれ入学式が執り行われ、希望に満ちた新年度がスタートしました。

3月31日には、待ちに待った念願の頭地大橋が開通し、五木村の再建に向け、観光産業に大きく貢献するものと思われます。

五木村において、平成25年度は水没予定地区の暫定活用等が計画され、大事な年であり、議会としても産業振興はもちろん、雇用対策、就労の場の確保等、重要な問題が山積しており、住民各位のご意見とご協力をお願い申し上げます。

S・O



頭地大橋渡り初めの様子

次回の定例会は6月中旬の予定です。皆様の傍聴をお待ちしております。